はしる、とぶ、わらう、その先へ。

未来を担う子ども
たちの健全な育成に、
スポーツは大きな貢献
ができると信じています。
からだを動かすたのしさは、
健康なからだを作り、
他者との関わりやルールへの
学びは、社会性を育み、
達成のよろこびは努力の
大切さを教えてくれます。
わたしたちは、スポーツに親しむ
子どもたちが未来を創る
担い手になっていくまでの
道のりを支え、あらゆる世代が
スポーツに親しめる社会の
実現を目指しています。

スポーツと、望む未来へ。

JSPO
Japan Sport Association

OFFICIAL PARTNERS

asics / Otsuka 大塚製薬 / Mizuno / 三井住友海上 MS&AD INSURANCE GROUP
LOTTE / セレスポ / ニチバン / 日本文化出版
図書印刷 / 時事通信 / THE SUPER SPORTS XEBIO GROUP / JP HOLDINGS 日本郵政

OFFICIAL SUPPLIERS

JAL / キャラバンジャパン / DESCENTE / 日本体育施設 / PR TIMES / MIKASA
東武トップツアーズ / JTB / KEM 京都電子工業 / Photo Create / 名鉄観光

令和6(2024)年3月31日発行

スポーツと、望む未来へ。
You are the future of sport.

JSPO
Japan Sport Association

事業概要

日本スポーツ協会

JSPOは、生涯にわたってスポーツに親しむ環境づくりと豊かな社会の形成に取り組んでいます

人種、国籍、性別、障がいや疾病の有無などにかかわらず、誰もがスポーツに親しめるように。
ライフステージに応じたその時々の興味・関心に合わせて、多様な関わり方ができるように。JSPOは、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境整備を行っています。

6歳　12歳　15歳　18歳　35歳　50歳　60歳　70歳　80歳～

する・みる

- スポーツ少年団
- 総合型地域スポーツクラブ
- JAPAN GAMES
- 全国スポーツ少年大会
- 日本スポーツマスターズ
- 国民スポーツ大会
- 国際交流・協力
- JSPO-ACP（アクティブ チャイルド プログラム）
- 「スポーツの日」中央記念行事

ささえる

- SPORT 公認スポーツ指導者
- 少年団・総合型クラブ指導者・役員・スタッフ等
- スポーツボランティア
- 表彰・顕彰
- スポーツ医・科学研究
- 女性スポーツ
- スポーツ寄付支援
- 各種 研修・講習会（リスクマネジメント、スポーツにおける人権侵害防止、多様な性のあり方、スポーツと環境等）

●コーポレート・メッセージ

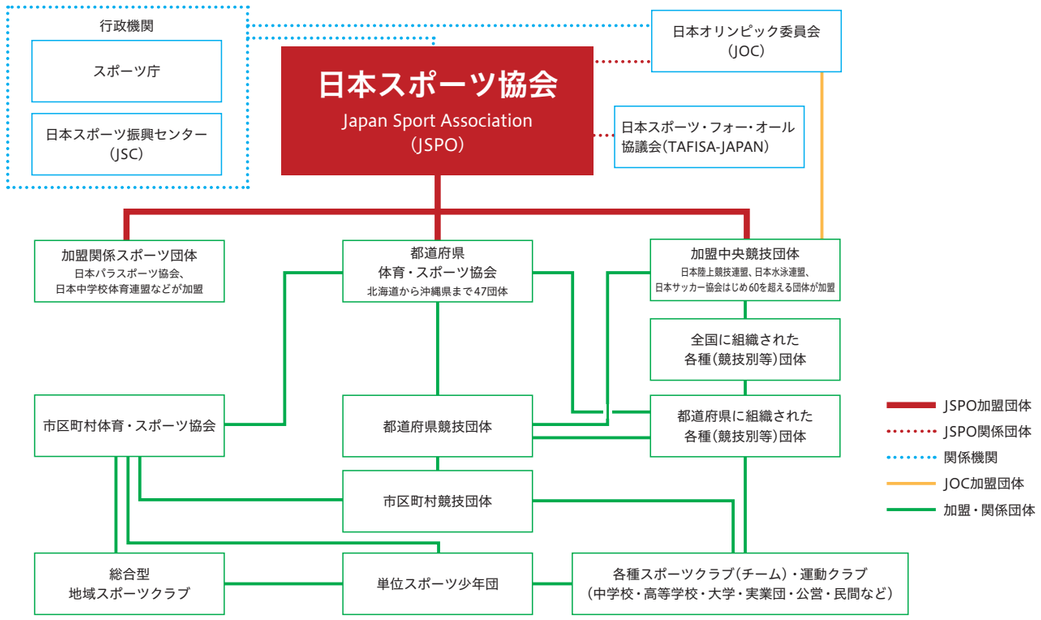
スポーツと、望む未来へ。

You are the future of sport.

スポーツは、自ら進んで楽しむものであり、
幸福の追求と健康で文化的な生活に欠かすことができない。
人類共通の文化であり、新しいライフスタイルを創造し、
フェアプレー精神で平和と友好に満ちた世界を築く。
私たち日本スポーツ協会は、
スポーツがあらゆる人々に一切の差別、格差なく享受され、
誰もが望む社会の実現に貢献していくことを目指し、支えます。
スポーツを愛するすべての人とともに。

公益財団法人日本スポーツ協会
会長　遠藤利明

●日本のスポーツ界におけるJSPOの位置づけ



JSPOが目指すもの

JSPOは子供から高齢者まで、人種、国籍、性別、障がいや疾病の有無などにかかわらず、
誰もが生涯にわたってスポーツを安全に、楽しく
「する」「みる」「ささえる」環境を整備するための事業を展開しています。

スポーツ宣言日本

平成23（2011）年に創立100周年を迎え、人類が直面するグローバルな課題解決に貢献するため、スポーツの力で次の3つの社会像を実現させようと「スポーツ宣言日本 －21世紀におけるスポーツの使命－」を公表しました。

スポーツ宣言日本が目指す社会像

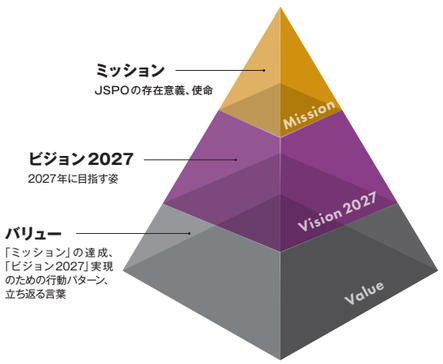
- ◎「公正で福祉豊かな地域生活」の創造
- ◎「環境と共生の時代を生きるライフスタイル」の創造
- ◎「平和と友好に満ちた世界」の構築

「JSPO中期計画2023-2027」

スポーツ宣言日本を強く意識し、スポーツを社会起点や生活者の視点で見つめ直し、心からスポーツを楽しみつつも、スポーツで培った力を広く社会に還元していくことを目指し、5年間の目標を掲げています。

全体像

「JSPO中期計画2023-2027」は、JSPOの「ミッション」、「ビジョン2027」、「バリュー」に基づき、これらを実現するための「4つの重点項目」と「32の成果目標」を中心に構成しています。



ミッション Mission ／ スポーツと、望む未来へ。～スポーツの力で、人も社会も元気になる仕組みを“ともに”つくる～

ミッションとは、これまでの110年も、これからの100年も根本は変わらない、JSPOの永遠の使命です。

ビジョン2027 Vision 2027 ／ だれでも、だれとでも。いつでも、いつまでも。自分らしくスポーツを楽しめる社会へ。

ビジョン2027とは、JSPOが2027年に実現したい社会の姿です。

バリュー Value ／ それは誰のためか？　それは何のためか？　それはフェアか？

バリューとは、JSPOが重視する価値観、あいことばです。

- 重点項目1 地域スポーツの最適化
- 重点項目2 多様性の尊重
- 重点項目3 スポーツ・インテグリティの強化
- 重点項目4 次世代につなぐ新たな仕組みの実現

32の成果目標

組織基盤の充実・強化

多岐にわたる事業・業務を効果的に遂行し、安定的かつ持続的な組織運営を実現するために、組織基盤の充実・強化に取り組みます。

- JSPOブランド戦略
- JSPO財務計画2023-2027
- JSPO人材育成計画2023-2027

目　次

P4	イベント事業	スポーツは、もっとオモシロイ。 **JAPAN GAMES**	● JAPAN GAMES
P5	イベント事業	我が国の競技力向上とスポーツ文化発展のために **国民スポーツ大会の開催**	●「日本一の都道府県」をかけて競う国内最大・最高の総合スポーツ大会 ● 国民スポーツ大会が支える我が国全体の競技力強化、そして開催地に生まれる笑顔
P6	イベント事業	チャレンジ精神で生涯を通じて生きがいのある社会を実現するために **日本スポーツマスターズの開催**	● 生涯現役アスリートが日本一をかけて競うシニアスポーツの祭典 ● 豊かなアクティブライフのために、いつまでも続くチャレンジ
P7	イベント事業	地域における活動の活性化のために **全国少年スポーツ大会／その他の大会**	● 全国少年スポーツ大会 ● 全国スポーツ少年団競技別交流大会 ● 日・韓・中ジュニア交流競技会
P8	クラブ事業／エリア事業	スポーツを通じて、青少年の健全な成長をサポートするために **スポーツ少年団の育成**	● 青少年の“こころ”と“からだ”を育む幅広い活動 ● 地域で広く活動できるリーダーを育成 ● スポーツを通じた学びと成長を支援
P9	クラブ事業／エリア事業	スポーツを核とした豊かな地域コミュニティを創造するために **総合型地域スポーツクラブの育成**	● 地域の誰もが自分の好きなスポーツができる環境づくり ● 総合型クラブが社会的な仕組みとして確立することを支援
P10	ソフトインフラ事業	適切な資質能力を身に付けたスポーツ指導者を育成するために **スポーツ指導者の育成**	●「プレーヤーズセンタード」の考え方のもと、学び続ける指導者を育成 ● 公認スポーツ指導者の育成を通して、安全・安心なスポーツ環境を整備
P11	ソフトインフラ事業	科学的根拠に基づく情報をスポーツ現場へ伝え続けるために **スポーツ医・科学の研究**	● 日本のスポーツ推進を支える多様な医・科学研究プロジェクト ● スポーツの科学的発展を生んだ各種の研究成果
P12	イベント事業	平和と友好に満ちた社会を構築するために **スポーツによる国際交流・協力**	● 国境と文化を越えて、相互理解を深めるスポーツ交流 ● スポーツの力による世界平和の実現と国際社会発展への寄与
P13	ソフトインフラ事業	スポーツの普及・推進の功労をたたえ、スポーツ文化を継承するために **表彰・顕彰**	● スポーツの普及・推進の功労者をたたえることでスポーツ文化を継承
P14	ソフトインフラ事業	SPORT HAPPINESS FOR WOMEN **女性スポーツの推進**	●「もっと、女性が、スポーツを楽しむ社会」の実現のために ● 関係団体との連携
P15	ソフトインフラ事業／イベント事業	**その他の事業**	● 運動部活動改革に向けた取り組み ● アクティブ チャイルド プログラム（JSPO-ACP） ● スポーツボランティア活動支援に向けた取り組み ● 生涯スポーツ・体力つくり全国会議 ●「スポーツの日」中央記念行事
P17		スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、みんなが『NO!』と言う社会を目指して **スポーツ界における暴力行為等の根絶**	●「NO! スポハラ」活動 ● スポーツ団体ガバナンスコード ● アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止に向けて ● スポーツにおける暴力行為等相談窓口
P18	ソフトインフラ事業	デジタル技術を活用した広報 **広報活動**	● ホームページ　● Sport Japan ● SNS　● JSPOスポーツニュース ● JSPO Plus　● 資料室
P19	JSPOの組織構成		
P20	JSPO所有標章		
P21	令和5（2023）年度 補助・助成団体、企業等実績 令和6（2024）年度 スポーツ・アクティブ・パートナー・プログラム協賛		

※事業紹介の内容は、例年実施している内容で記載しております。

スポーツは、もっとオモシロイ。

JAPAN GAMES

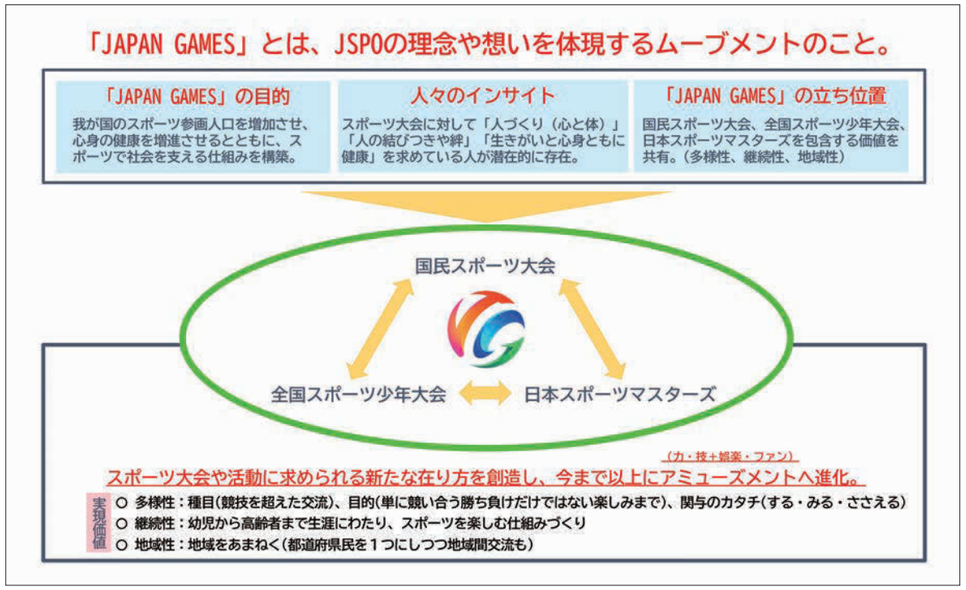
JAPAN GAMES

「JAPAN GAMES」は、JSPOの理念や想いを体現するムーブメントとして、従来、個々の大会として開催している「国民スポーツ大会」、「全国スポーツ少年大会」、「日本スポーツマスターズ」の連携・協働を図り、スポーツ大会や活動に求められる新たな在り方を創造することを志す取り組みです。

「JAPAN GAMES」は、スポーツの目的、関与のカタチの「多様性」、幼児から高齢者まで生涯にわたり各々の世代でスポーツを楽しみ、豊かに過ごす仕組みを実現させる「継続性」、都道府県民を1つにしながら地域間交流も生む「地域性」の3点を実現する価値として掲げ、スポーツをもっとオモシロイものへと進化させることをめざします。

スポーツは、もっとオモシロイ。オモシロイを、もっとみんなで。

スポーツは、
もっと
オモシロイ。



我が国の競技力向上とスポーツ文化発展のために

国民スポーツ大会の開催

「日本一の都道府県」をかけて競う国内最大・最高の総合スポーツ大会

国民スポーツ大会（国スポ）は、スポーツ基本法に位置づけられた国民スポーツの祭典として、毎年1-2月に実施される冬季大会と、9-10月に開催される本大会があり、各都道府県を代表する総勢2万6 ,000人超の選手が40競技にわたり参加する都道府県対抗の総合競技大会です。

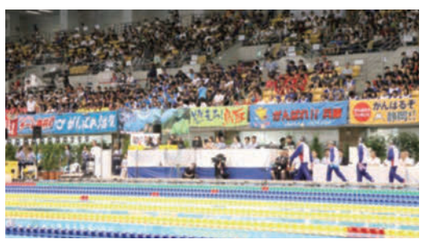
開催地となる都道府県は毎年順番に変わり、JSPO・文部科学省・開催地都道府県の三者共催で実施されます。本大会の開会式には天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、各競技会には多くの方々が観戦に訪れ、トップアスリートや将来有望なジュニアアスリートが真剣に競い合う迫力に魅了されます。

国民スポーツ大会が支える我が国全体の競技力強化、そして開催地に生まれる笑顔

国民スポーツ大会は、「する」「みる」「ささえる」のスポーツ推進においてさまざまな役割を果たしています。都道府県対抗形式は「する」選手の発掘・育成・強化の体制整備を全国各地域で促進し、トップアスリートへの登竜門となっています。

各競技会場は無料公開（特別競技の高等学校野球を除く）のため、トップレベルの選手たちの迫力あるプレーを身近に「みる」ことにより、スポーツの魅力を広く発信します。また、遠来の応援者や観戦者のスポーツツーリズムを促進し、地元での経済効果・経済波及効果をもたらし、地域活性化に寄与しています。

監督はすべての競技でJSPO公認スポーツ指導者資格の保有が義務づけられており、適切なスポーツ指導の普及促進、「ささえる」人々の資質向上に貢献しています。さらに、開催地の地元ボランティアスタッフのおもてなしにより、参加選手団と開催地の方々が交流を深め、笑顔を増やし、新たな絆を生んでいます。


都道府県対抗は郷土のチームの応援にも熱が入る

「みる」スポーツの魅力

氷上・雪上の熱き戦い

▸▸▸ 国スポのはじまり

国スポは昭和21（1946）年、戦後混乱期の日本国民、とりわけ青少年に勇気と希望を与えようと京阪神地域で第1回大会が開催されました。

以来、毎年各都道府県持ち回りで開催され、昭和63（1988）年の第43回京都国体から二巡目として開催しています。

なお、令和6（2024）年1月1日から、国民体育大会（国体）から国民スポーツ協会（国スポ）と名称を変更しました。

第1回大会開会式（橿原神宮球場）

SPORTS MASTERS JAPAN

チャレンジ精神で生涯を通じて生きがいのある社会を実現するために

日本スポーツマスターズの開催

生涯現役アスリートが日本一をかけて競うシニアスポーツの祭典

日本スポーツマスターズは、シニア世代（原則35歳以上）のスポーツ愛好者の中で、競技志向の高い人たちを対象とした日本初・唯一の総合スポーツ大会です。スポーツクラブやチームなどで日常的、継続的にスポーツに親しんでいる選手が「自己の技量を試す場」として、またオリンピックや国際大会、国スポ（旧称：国体）などで活躍したアスリートの「セカンド・ステージ」としての役割を担い、平成13（2001）年に創設されました。

開会式の一コマ

水泳

サッカー

テニス

バレーボール

バスケットボール

自転車競技

ソフトテニス

軟式野球

ソフトボール

一生懸命応援

バドミントン

空手道

ボウリング

ゴルフ

豊かなアクティブライフのために、いつまでも続くチャレンジ

日本スポーツマスターズに参加する選手およびスタッフは、例年、全13競技で総勢1万5,000人を超え、その中には第1回大会から連続出場中の方や80歳以上の参加者がいるなど、多くのシニア世代にとって競技を続ける上で、そして生涯における一つの目標となっています。そんな生涯チャレンジする人をJSPOは応援しています。

また、大会に出場する仲間や家族と一緒にスポーツツーリズムとして楽しむことで、豊かなスポーツライフを拡げています。

▸▸▸ 大会を通じた日韓交流

日本スポーツマスターズでは、日韓スポーツ交流・成人交歓交流の一環として、毎年、約180名の韓国選手団と交流しています。

地域における活動の活性化のために

全国スポーツ少年大会／その他の大会

全国スポーツ少年大会

全国スポーツ少年大会は、全国の都道府県スポーツ少年団代表の団員および指導者の参加のもと、集団生活を行い、スポーツ活動・文化学習活動・野外活動・交歓交流活動等を通して、青少年のこころとからだを育てるとともに、スポーツ少年団活動をより一層促進し、地域における活動の活性化を図ることを目的としています。また、この大会は、リーダーの育成を考慮したスポーツ交歓交流大会として、全国の都道府県スポーツ少年団の持ち回りで行われています。

その他の大会

全国スポーツ少年団競技別交流大会

全国の仲間とスポーツを通して交流を深めるために、競技別交流大会を実施しています。さまざまな年齢の子どもたちが、スポーツを通じてお互いに学びあい、仲間意識と連携を高めることにより、地域における団活動の活性化を図ることを目的としています。

〈開催種目〉軟式野球、バレーボール、剣道

日・韓・中ジュニア交流競技会

東アジア諸国との青少年スポーツ交流を促進し、これを通じて相互理解を深め、競技力向上に資するため、高校生世代では珍しい国際的な複数競技による大会として、平成5（1993）年から日本・韓国・中国が持ち回って開催しています。

参加選手は日本・韓国・中国と開催地選抜の4選手団からなり、日本選手団は各競技とも、国内の競技大会で好成績を収めているトップレベルの選手を中心として編成され、韓国・中国選手団と毎年熱戦を繰り広げています。

オリンピック出場選手や、その他の国際競技会で現在活躍している選手が過去の本競技会に多数参加しており、日本の競技力向上に大きな役割を果たしています。

スポーツを通じて、青少年の健全な成長をサポートするために

スポーツ少年団の育成

青少年の“こころ”と“からだ”を育む幅広い活動

日本スポーツ少年団は「ひとりでも多くの青少年にスポーツの歓びを！」「スポーツを通して、青少年のこころとからだを育てる組織を地域社会の中に！」との願いのもとに、東京1964オリンピック開催の2年前、昭和37（1962）年にJSPOの内部組織として創設された国内最大規模の青少年スポーツ組織です。全国に約3万の単位スポーツ少年団が登録されており、約70万人の団員、指導者等が地域の中で活動しています。

スポーツ活動にとどまらず、青少年の国内・国際交流、地域で広く活躍するリーダーの育成、さらには“地域づくり”のキーワードを掲げた地域貢献など、幅広い活動を行っています。

スポーツだけでなく地域貢献などさまざまな活動を実施

地域で広く活躍できるリーダーを育成

スポーツ少年団では、団や地域の中で先頭に立って活動するジュニア・リーダー、シニア・リーダーの育成を行っています。リーダーは、団活動の中で指導者と協力して団員をまとめる役割や地域活動の企画・運営を行っています。

リーダー育成を通じて、団や地域の活動に貢献することはもちろん、将来、地域でのスポーツ活動の中心となる担い手を育てています。

将来、団や地域を支えるリーダーの育成

スポーツを通じた学びと成長を支援

スポーツ少年団では、スポーツ活動や大会のほかにも、全国の仲間とさまざまな活動を通じて学び合う国内交流やドイツ・中国との国際交流において、相互理解、多様性、グローバル感覚を養うための活動等を支援しています。また、少年団の活動に関わる指導者には、JSPO公認スポーツ指導者資格の保有を義務づけ、少年団活動が「安全に、正しく、楽しく」行われるための環境整備に取り組んでいます。

■スポーツ少年団の主な国内・国際交流イベント

	名　称	
国内交流	全国スポーツ少年大会	
	競技別交流大会	全国スポーツ少年団軟式野球交流大会
		全国スポーツ少年団バレーボール交流大会
		全国スポーツ少年団剣道交流大会
国際交流	日独スポーツ少年団同時交流（派遣・受入）	
	日独スポーツ少年団指導者交流・日独青少年指導者セミナー（隔年で実施）	
	日中青少年スポーツ交流（隔年で派遣、受入を実施）	

▸▸▸ 動きの「量」と「質」を評価する「運動適性テストⅡ」

発育・発達期の子どもの身体の動きや、スポーツや運動の適性を評価する「運動適性テストⅡ」を、令和2（2020）年度に作成しました。

スポーツを核とした豊かな地域コミュニティを創造するために

総合型地域スポーツクラブの育成

地域の誰もが自分の好きなスポーツができる環境づくり

総合型地域スポーツクラブ（総合型クラブ）とは、「地域の人々に年齢、興味関心、技術技能などに応じたさまざまなスポーツ機会を提供する、『多世代』『多種目』『多志向』という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ」です。

JSPOは総合型クラブの活動や創設を支援することで、スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造を目指しています。

ウォーキング教室

ダンス教室

筋力トレーニング教室

親子運動遊び教室

子どもも高齢者もスナッグゴルフ

青空の下、気持ちよくフライングディスク

多世代が一緒に剣道

地域ぐるみで二人三脚

総合型クラブが社会的な仕組みとして確立することを支援

JSPOは、平成9（1997）年度にスポーツ少年団を核としたクラブ育成モデル地区事業をスタートさせ、これまで多くの総合型クラブへの支援に取り組み、各クラブでは、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が自らの興味･関心に沿って楽しく活動し、交流の輪を広げています。

令和4（2022）年度には、総合型クラブが公益性の高い社会的な仕組みとして、充実した活動を行えるよう総合型クラブ登録･認証制度をスタートしました。ガバナンス、組織体制が確立した総合型クラブが地方自治体等の地域スポーツ組織と連携し、公益的な事業体としての役割を果たすことが期待されます。

▸▸▸ 総合型クラブ全国ネットワーク構築

全国の総合型クラブの定着と発展を推進するために、JSPOは平成20（2008）年に総合型地域スポーツクラブ全国協議会（SC全国ネットワーク）を設立。人材・活動施設・財源の確保や学校部活動との連携など、各クラブが抱える課題解決のための情報交換を促し、クラブ間活動交流の活性化を図っています。

▸▸▸ 公式メールマガジンによる情報提供

総合型クラブの育成・支援に関する情報を、メールマガジンを活用して全国の総合型クラブ関係者や地域スポーツ担当者に提供しています。諸課題への対処方法や先進的な取り組み事例など、日常のクラブ活動の中では収集し難い有用な情報提供に努めています。

SPORT
JSPO OFFICIAL LICENSE

適切な資質能力を身に付けたスポーツ指導者を育成するために

スポーツ指導者の育成

「プレーヤーズセンタード」の考え方のもと、学び続ける指導者を育成

JSPOは、中央競技団体および都道府県体育・スポーツ協会と連携して、東京1964オリンピック開催翌年の昭和40（1965）年から指導者の養成・認定事業を行っています。

令和元（2019）年にモデル・コア・カリキュラムを反映し改定した新カリキュラムでは、プレーヤーを中心にプレーヤーを取り巻くアントラージュ（指導者や保護者等）自身も、それぞれのWell-being（良好・幸福な状態）を目指しながら、プレーヤーをサポートしていく「プレーヤーズセンタード」の考え方を提唱。人間力、実践力、学び続けるなどをキーワードに、スポーツ医・科学に基づく知見を学び、自ら考えることを通して、プレーヤーの成長を支援できる指導者の育成を行っています。

【全体が高まる・成長する】
プレーヤーズセンタード全体像
（立教大学・松尾哲矢 2019）

公認スポーツ指導者の育成を通して、安全・安心なスポーツ環境を整備

一人ひとりのライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進できるよう、5つの領域にわたる19種の資格を設け、令和5（2023）年10月時点で68万名を超える公認スポーツ指導者を認定しています。

様々な地域、様々な場面で、正しい知識と適切な指導技術を備えた公認スポーツ指導者が、プレーヤーそれぞれのライフステージに応じた多様なスポーツ活動をサポートすることにより、スポーツを通じた望ましい社会の実現に貢献します。特に、学校運動部活動の地域連携や地域移行におけるスポーツ指導者の確保に貢献していきます。

スポーツ指導者基礎資格	●スポーツコーチングリーダー ●スポーツリーダー
競技別指導者資格	●スタートコーチ ●コーチ1 ●コーチ2 ●コーチ3 ●コーチ4 ●教師 ●上級教師

メディカル・コンディショニング資格	●スポーツドクター ●スポーツデンティスト ●アスレティックトレーナー ●スポーツ栄養士
フィットネス資格	●フィットネストレーナー ●スポーツプログラマー ●ジュニアスポーツ指導員 ●スタートコーチ（ジュニア・ユース）
マネジメント指導者資格	●アシスタントマネジャー ●クラブマネジャー

ジュニアスポーツ指導員養成講習会

アクティブラーニングによる講習

アスレティックトレーナー養成講習会

指導する現場・機会を探す公認スポーツ指導者と、指導者を探すチーム・学校などのニーズをマッチングさせるため、公認スポーツ指導者マッチングのウェブサイトを運営しています。公認スポーツ指導者による専門的な指導や後継者を探す場合に役立つほか、学校運動部活動をめぐる諸課題解決への一助となることを目指しています。

科学的根拠に基づく情報をスポーツ現場へ伝え続けるために

スポーツ医・科学の研究

日本のスポーツ推進を支える多様な医・科学研究プロジェクト

JSPOのスポーツ医・科学研究の歴史は、昭和22（1947）年に「体育医事相談所」を開設し、スポーツ選手の健康管理や医事相談等に着手したことに始まります。その後、昭和39（1964）年開催の東京1964オリンピックに向けた選手強化の拠点として、競技力向上のためのサポート活動が進められました。

現在はスポーツ医学、運動生理学、心理学、社会学などの様々な研究領域から、生涯にわたるスポーツの推進を意図した様々な医・科学研究プロジェクトを展開しています。

東京1964オリンピック当時の
体育医事相談所

熱中症の予防方法を紹介する動画なども制作

スポーツの科学的発展を生んだ各種の研究成果

今や常識となった熱中症予防対策の研究を、30年以上前の平成3（1991）年にスタートさせ継続的に普及・啓発を行うとともに、アンチ・ドーピングに関する教育・啓発など多様な研究を行っています。

また、子どもが様々な運動遊びを通して、楽しく、積極的にからだを動かす中で、健やかなこころとからだを育むことを意図した、アクティブ チャイルド プログラム（JSPO-ACP）の開発・普及などをはじめ、生涯にわたって適切にスポーツに親しめるプログラムを策定しこれらの成果を広く社会に還元しています。

さらに、性的指向および性自認等の多様な性の尊重や、暴力、虐待および差別等の人権侵害の防止、気候変動および生物多様性の損失への対応等の環境保護の視点からみる持続可能性の推進に関する各種調査研究を行うとともに、成果に基づく教材開発を行うなど、安心・安全なスポーツ環境の整備に貢献できるようプロジェクトを進めています。

アクティブ チャイルド プログラム
（JSPO-ACP）に取り組む子どもたち

スポーツと環境の関わりを啓発する
動画を制作

▸▸▸ 主なスポーツ医・科学研究プロジェクト

- アクティブ チャイルド プログラム（JSPO-ACP）普及・啓発
- 体育・スポーツにおける人権侵害防止に関する調査研究
- 環境保護の視点からみるスポーツの持続可能性に関する調査研究
- スポーツ活動中の熱中症事故予防に関する研究
- アンチ・ドーピング教育・啓発に関する研究
- 日本版フィジカルリテラシー評価尺度の開発・検証および普及啓発に関する研究

他の研究プロジェクトは、
JSPO ホームページをご覧ください。

▸▸▸ スポーツ医・科学研究の広報・出版物

アクティブ チャイルド
プログラム
Guide Book

体育・スポーツにおける
多様な性のあり方ガイドライン
性的指向・性自認（SOGI）に
関する理解を深めるために

アクティブ チャイルド プログラム
－子どもの心と体を育む
楽しいあそび－
出版社：ベースボール・マガジン社

子どものプレイフルネスを
育てるプレイメーカー
～プレイフルネス運動遊びへの招待～
出版社：サンライフ企画

現代スポーツは嘉納治五郎から
何を学ぶのか－オリンピック・
体育・柔道の新たなビジョン－
出版社：ミネルヴァ書房

小・中学生の
スポーツ栄養ガイド
出版社：女子栄養大学出版部

スポーツ活動中の
熱中症予防
ガイドブック

健幸華齢のための
スマートライフ
出版社：サンライフ企画

平和と友好に満ちた社会を構築するために

スポーツによる国際交流・協力

国境と文化を越えて、相互理解を深めるスポーツ交流

フェアプレーを尽くす、ルールを守るといった相互尊敬が求められるスポーツは、真の友好と親善の基盤を培います。JSPOはこのスポーツの力を踏まえて、国境や言語の壁を越えたさまざまな国際交流・協力を行っています。

韓国や中国、ドイツを中心とした交流においては、競技を通じた友好とフェアプレーの促進を図り、文化探訪なども交えて相互理解を深めています。また、ASEAN諸国とのスポーツ分野での連携・協力の推進や、日本に暮らす在留外国人の方々とのスポーツ交流イベントの実施などを行っています。

友好とフェアプレー精神の促進

国境を超えて一緒に楽しむ

競技を越えたレクリエーション交流

スポーツの力による世界平和の実現と国際社会発展への寄与

年間を通じて韓国、中国、ドイツを中心とした国との相互訪問による交流を実施しています。言葉が通じなくとも一緒にスポーツを行うことにより、共感が生まれ、相手を受け入れる気持ちが互いに高まります。

スポーツを通じた交流はもとより、現地での生活や文化探訪により、歴史、風土、食事などの異文化を肌で感じる体験も加わり、相手国へのより深い理解と尊敬を促します。また、JSPOが行った国際交流をきっかけに、海外選手・指導者との間で独自の交流が生まれ、継続されている事例も数多く報告されています。

ASEAN諸国との取り組みとしては、平成30（2018）年からタイをパートナーとし「アクティブ チャイルド プログラム（JSPO-ACP）」を活用した共同事業を実施しています。

■国際交流一覧

事業名	概　要
日韓青少年夏季スポーツ交流	日韓両選手団による派遣・受入の相互交流
日韓スポーツ交流・成人交歓交流	日韓両選手団による派遣・受入の相互交流
日中成人スポーツ交流	日中両選手団による派遣・受入の相互交流
日・韓・中ジュニア交流競技会	3か国の高校生世代におけるトップレベルアスリートによるスポーツ交流
日韓中青少年冬季スポーツ交流	3か国の選手団によるスポーツ交流
地域交流（都道府県・市区町村交流）	韓国・中国等との地域レベルでのスポーツ交流
在留外国人とのスポーツ交流	在留外国人の方々とのスポーツ交流イベントの実施
日独スポーツ少年団同時交流	日独両スポーツ少年団による派遣・受入の相互交流
日独スポーツ少年団指導者交流・日独青少年指導者セミナー	日独両国の指導者による相互交流
日中青少年スポーツ交流	日中両国の青少年・指導者による交流

スポーツの普及・推進の功労をたたえ、スポーツ文化を継承するために

表彰・顕彰

スポーツの普及・推進の功労者をたたえることでスポーツ文化を継承

スポーツの発展に多大な貢献をされた方をたたえるために、広く表彰制度を定めて実施しています。スポーツを愛し継続してプレーする人、強化・普及・発展に貢献する人などにスポットを当て、その功績を多くの方々に知っていただくことにより、スポーツ文化を受け継ぐ後進の目標になっています。

▸▸▸ 日本スポーツグランプリ

永年にわたりスポーツを実践し続けた方や中高年齢層で顕著な記録や実績をあげた方の功績をたたえるもので、平成18（2006）年度から実施しています。健康を維持しながら、まさに生涯にわたってスポーツを楽しむその姿は、多くの人に感動や勇気を与えています。

2018年50・100m背泳ぎ（短水路）日本記録を樹立した桑山菅子さん（受賞時95歳）

2010年に走幅跳で4m36の世界記録を樹立した石神三郎さん（受賞時89歳）

全日本剣道演武大会に3回連続出場し、剣道範士の部で最終演武者となった坂井年夫さん（受賞時96歳）

水戸市勤労者福祉サービスセンターのボウリング大会に30年近く参加し優勝経験もある日暮福枝さん（受賞時89歳）

2004年から日本マスターズに8回連続出場し、柔道で優勝5回、準優勝1回、3位2回の野口宏水さん（受賞時84歳）

高校でダンス部結成以来57年にわたって幅広く活動を続け、2000年国体などに出演した八木綾子さん（受賞時82歳）

▸▸▸ 公認スポーツ指導者等表彰

永年にわたりスポーツ指導者の育成・組織化、競技力向上、制度の発展、その他国民スポーツの振興に貢献された方のうち、特に顕著な功績があった方を対象に平成7（1995）年から表彰しています。

公認スポーツ指導者表彰の様子

▸▸▸ 秩父宮記念スポーツ医・科学賞

スポーツの宮様として親しまれた秩父宮殿下と秩父宮家の名を語り継ぐため、故秩父宮妃殿下からの御遺贈金を基金として平成9（1997）年に設立し、スポーツ医・科学の分野で顕著な功績を対象に表彰しています。

令和5（2023）年度の功労賞を受賞した寒川恒夫さん

奨励賞を受賞した能瀬さやかさん（写真左）
順天堂大学女性スポーツ研究センターの代表：小笠原悦子さん（写真右）

▸▸▸ 日本スポーツ少年団顕彰

永年にわたりスポーツ少年団の発展に貢献し、特に顕著な功績のある市区町村スポーツ少年団、登録者、退任者を対象に昭和63（1988）年から表彰しています。

▸▸▸ 国民スポーツ大会功労者表彰

永年にわたり国スポ（旧称：国体）に参加するとともに、その発展に貢献し、スポーツ振興に多大な貢献をされた方を対象に表彰しています。昭和63（1988）年の第43回大会（京都府）から実施しています。

国民スポーツ大会功労者表彰の様子
（写真当時の名称は国民体育大会表彰）

SPORT HAPPINESS FOR WOMEN

女性スポーツの推進

「もっと、女性が、スポーツを楽しむ社会」の実現のために

「SPORT HAPPINESS FOR WOMEN」をキーワードに『だれでも、だれとでも』『いつでも、いつまでも』『自分らしく』スポーツを楽しめる社会の実現を目指しています。

また、国スポ女子種別の充実、スポーツ少年団の女性役員・女子団員の拡充、女性の公認スポーツ指導者の拡充など、女性スポーツに関わるJSPOの各事業横断的なアクションプランを策定し、取り組んでいくこととしています。

SPORT HAPPINESS FOR WOMEN

関係団体との連携

・スポーツを止めるな 1252プロジェクト

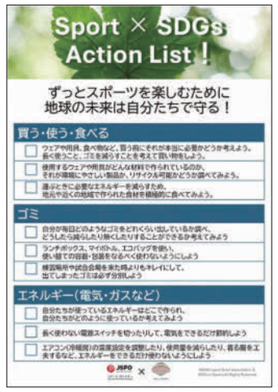
女性プレーヤーが抱える「生理×スポーツ」に関する教育・啓発を推進するため、一般社団法人スポーツを止めるなと、「1252プロジェクト」の活動に関して包括連携協定を締結しました。女性のスポーツ参加促進や安全・安心な活動環境の整備に向けた取り組みを進めています。

・女性アスリート健康支援に関する協力

スポーツに取り組む女性に共通する特有の疾病等の問題を啓発するため、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会と連携し、月経周期とコンディションとの関係やエネルギー不足を起因とした無月経等の問題などの研修を実施しています。

・SDGs in Sports

スポーツ界のあらゆるステークホルダーに対して、SDGsに関する意識向上・啓発をさらに推進していくため、一般社団法人SDGs in Sportsと包括連携協定を締結しました。各種情報の共有や調査分析など、互いの組織の特長を活用した取り組みを進めています。



連携して作成したSport×SDGs Action List

SDGs in SPORTS

その他の事業

●運動部活動改革に向けた取り組み

運動部活動改革（地域連携、地域移行）を契機に、主に「適切な資質能力を身につけた指導者の確保」、「多様な運営団体・実施主体の確保」について加盟団体と連携・協働し積極的に取り組み、ジュニアスポーツの環境整備と地域スポーツ環境の最適化につなげていきます。

●アクティブ チャイルド プログラム（JSPO-ACP）

子どもが様々な運動遊びを通して、楽しく積極的にからだを動かす中で、健やかなこころとからだを育み、ひいては生涯スポーツの基礎を培うためのプログラムとしてアクティブ チャイルド プログラム（JSPO-ACP）を開発しました。各種コンテンツの制作、スポーツ指導者および関係者を対象とした各種研修会や親子体験イベント等の開催を通じて、JSPO-ACPを普及・啓発しています。

●スポーツボランティア活動支援に向けた取り組み

JSPOは、笹川スポーツ財団、日本財団ボランティアセンターと連携し、それぞれが保有する資源（スポーツ団体とのネットワーク・調査情報・ボランティア運営ノウハウやシステムなど）を活用し、スポーツボランティア活動に参加する人と場の拡大・充実を図り、スポーツボランティア文化のさらなる発展と定着を目指しています。

●生涯スポーツ・体力つくり全国会議

JSPOは、スポーツ庁および各種団体と連携し、第3期スポーツ基本計画［令和4（2022）年スポーツ庁策定］に掲げられた、一人ひとりの人生や社会が豊かになる「Sport in life」のさらなる推進に向け、多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討する「生涯スポーツ・体力つくり全国会議」を毎年開催しています。

●「スポーツの日」中央記念行事

東京1964オリンピック［昭和39（1964）年］の開催を記念し、国民がスポーツに親しみ健康な心身を培う趣旨で制定された「スポーツの日」（旧 体育の日）に、JSPOはスポーツ庁、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、日本レクリエーション協会等の関係団体との共催により、スポーツ教室や練習見学、アクティブ チャイルド プログラム（JSPO-ACP）などさまざまなプログラムを実施しています。誰でも参加でき、トップアスリートのトレーニング施設でからだを動かしながらスポーツの楽しさや喜びを体験できるイベントです。

国際競技大会・スポーツ関連団体との連携・協力

●ワールドマスターズゲームズ2027 関西の共催

JSPOは、令和9（2027）年5月に関西地区で開催が予定されている「ワールドマスターズゲームズ2027関西」を共催しています。同大会の機運醸成やPR活動を推進するため、公益財団法人ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会と連携し、関係競技団体との調整や参加促進などに協力するとともに、情報誌「Sport Japan」に関連記事を掲載するなど周知を行っています。

●JICA（独立行政法人国際協力機構）との連携

「JICA海外協力隊」のスポーツ分野の隊員募集においては、公認スポーツ指導者資格の保有を条件としているものもあり、引き続きJICAと連携し、資格保有について推奨していきます。JSPOでは、各競技団体の指導者育成担当者に同事業を案内するなどの周知に協力しています。

また、令和3（2021）年度からは、海外協力隊の派遣前訓練に講師を派遣しJSPO-ACPについて講義を実施するなど、今後もより一層JICA各事業との連携を深めていきます。

スポーツ界における暴力行為根絶宣言

現代社会において、スポーツは「する」、「みる」、「支える」などの観点から、多くの人々に親しまれている。さらに21世紀のスポーツは、一層重要な使命を担っている。それは、人と人との絆を培うスポーツが、人種や思想、信条などの異なる人々が暮らす地域において、公正で豊かな生活の創造に貢献することである。また、身体活動の経験を通して共感の能力を育み、環境や他者への理解を深める機会を提供するスポーツは、環境と共生の時代を生きる現代社会において、私たちのライフスタイルの創造に大きく貢献することができる。さらに、フェアプレーの精神やヒューマニティーの尊重を根幹とするスポーツは、何よりも平和と友好に満ちた世界を築くことに強い力を発揮することができる。

しかしながら、我が国のスポーツ界においては、スポーツの価値を著しく冒瀆し、スポーツの使命を破壊する暴力行為が顕在化している現実がある。暴力行為がスポーツを行う者の人権を侵害し、スポーツ愛好者を減少させ、さらにはスポーツの透明性、公正さや公平をむしばむことは自明である。スポーツにおける暴力行為は、人間の尊厳を否定し、指導者とスポーツを行う者、スポーツを行う者相互の信頼関係を根こそぎ崩壊させ、スポーツそのものの存立を否定する、誠に恥ずべき行為である。

私たちの愛するスポーツを守り、これからのスポーツのあるべき姿を構築していくためには、スポーツ界における暴力行為を根絶しなければならない。指導者、スポーツを行う者、スポーツ団体及び組織は、スポーツの価値を守り、21世紀のスポーツの使命を果たすために、暴力行為根絶に対する大きな責務を負っている。このことに鑑み、スポーツ界における暴力行為根絶を以下のように宣言する。

（本宣言の続きはQRコードからご確認ください）

※本宣言は、平成25（2013）年4月25日、日本スポーツ協会（当時、日本体育協会）、日本オリンピック委員会、日本パラスポーツ協会（当時、日本障がい者スポーツ協会）、全国高等学校体育連盟および日本中学校体育連盟の5団体の呼びかけにより開催された「スポーツ界における暴力行為根絶に向けた集い」において、参加したスポーツ関係者の満場一致で採択されたものです。

スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、みんなが『NO！』と言う社会を目指して

スポーツ界における暴力行為等の根絶

JSPOでは、スポハラの根絶に向けて、さまざまな取り組みを行っています

●「NO! スポハラ」活動

スポハラ（スポーツ・ハラスメント）とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など「安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為」のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、「スポハラ」は起こりえます。

平成25（2013）年に「スポーツにおける暴力行為根絶宣言」を採択してから10年経過したことを契機に、令和5（2023）年から「NO! スポハラ」活動を開始しました。

この活動は、JSPOおよび日本オリンピック委員会、日本パラスポーツ協会、日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、大学スポーツ協会の6団体共同で実施するもので、「スポハラ」について関心をもってもらう、知ってもらう、学んでもらう、そして、防止に向けた行動ができるようになってもらうために必要な情報発信やイベントを行っています。

●スポーツ団体ガバナンスコード

令和元（2019）年にスポーツ庁が策定した「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉」に適合した法人運営に取り組むと同時に、JSPO加盟団体規程に基づき、加盟団体に対し、同コードの遵守を義務づけています。また、中央競技団体に対しては、4年に1度適合性審査を行うとともに、その結果を公表しています。

●アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止に向けて

競技者の盗撮、性的目的の写真・動画の悪用、悪質なSNS投稿等の卑劣な行為により、プレーヤーが競技に集中することを妨げられるだけでなく、競技そのものを諦めざるを得ないという声があがっています。

JSPO、日本オリンピック委員会、日本パラスポーツ協会、大学スポーツ協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟、日本スポーツ振興センターは右記のステートメント（声明文）を公開しました。

●スポーツにおける暴力行為等相談窓口

JSPOでは、スポーツにおける暴力行為等に関する相談に対応するため、「スポーツにおける暴力行為等相談窓口」を設置しています。当相談窓口では、一般社団法人日本スポーツ法支援・研究センターおよびJSPO加盟団体との連携により、皆さまからの相談に対し、専門の相談員が相談を受けます。（※）

また、当窓口で処分可能な事案については事実確認を行い、暴力行為等が明らかになった場合は、必要な処分を行います。

※当窓口の取り扱い範囲以外の相談については別の窓口を紹介いたします。

相談方法	問合せ先	受付時間	備　考
①WEB	相談フォーム	24時間随時	ご相談の際は、暴力行為等の具体的な内容（いつ、だれが、誰に対して、どのようなことをどのように行ったか等）を時系列に沿って明確に整理されるとともに、行為時の様子が分かる動画・音声・写真・診断書等をお持ちの場合はそれらも併せてご準備いただきますと、相談がより円滑に進められます。
②電話	03-6910-5827	毎週火・木曜日 13:00～17:00 （年末年始・祝日を除く）	

デジタル技術を活用した広報

広報活動

ホームページやSNS、刊行物によるスポーツ情報の発信を行っています。

●ホームページ

JSPOの目指す方向性、組織体制、取り組んでいる事業を紹介し、最新の情報やトピックスをタイムリーにお知らせしています。

ホームページ(トップページ)

●SNS

JSPOの最新情報をいち早くご案内するとともに、動画などでより分かりやすく紹介するために、公式SNSを開設しています。

X(旧Twitter)　Facebook　YouTube

●JSPO Plus

“スポーツが日々の生活に+αの幸せをもたらす”ことを感じていただきたいという思いのもと、アスリートへのインタビュー、スポーツのコラム、スポーツ界の旬な出来事の紹介などを独自の切り口で紹介しています。スポーツに興味や親しみを感じるきっかけに、またスポーツの新たな一面を知るきっかけとなるよう各種情報をお届けします。

JSPO Plus

●Sport Japan

スポーツ指導者、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブをはじめとする全てのスポーツ関係者に向けた情報誌です。現場で役立つ指導法やスポーツ医・科学情報、全国各地の活動情報、国内外のスポーツ情報、JSPOの取り組み紹介など、各種情報をタイムリーに発信しています。

◆年間6回　奇数月の10日に発行
(通常号4回、特別増ページ号2回)
◆定価770円／特別増ページ号
1,100円(いずれも税込)

Sport Japan

●JSPO スポーツニュース

全国の小中学校、特別支援学校などに向けて、壁新聞を発行しています。「スポーツニュース」では話題性の高い内容を取り上げ、「フェアプレーニュース」ではスポーツを通じて育まれる「フェアプレー」について学び、考えるきっかけとなるように作成しています。

●資料室

日本のスポーツの歴史を伝える貴重な書籍をはじめ、関係機関・団体から寄贈される書籍を多数保管しています。一般の方々も閲覧できますので、ぜひご利用ください(事前予約制、貸出しは行っていません)。

◆場所:JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 12階
◆公開日:月、水、金曜日(祝日の場合はお休み)
◆公開時間:午前10時～12時、午後1時～4時

※利用にあたっては土日祝を除く2営業日までの事前予約が必要です。

JSPOの組織構成

歴代会長

初代	嘉納 治五郎	明治44年～大正10年
第2代	岸 清一	大正10年～昭和8年
第3代	大島 又彦	昭和11年～昭和12年
第4代	下村 宏	昭和12年～昭和17年
第5代	平沼 亮三	昭和21年
第6代	東 龍太郎	昭和22年～昭和33年
第7代	津島 寿一	昭和34年～昭和37年
第8代	石井 光次郎	昭和37年～昭和50年
第9代	河野 謙三	昭和50年～昭和58年
第10代	福永 健司	昭和58年～昭和63年
第11代	青木 半治	平成元年～平成5年
第12代	高原 須美子	平成5年～平成7年
第13代	安西 孝之	平成7年～平成17年
第14代	森 喜朗	平成17年～平成23年
第15代	張 富士夫	平成23年～平成29年
第16代	伊藤 雅俊	平成29年～令和5年
第17代	遠藤 利明	令和5年～現在

役　員

会長	遠藤 利明
副会長	越川 均
	坂元 要
	益子 直美
専務理事	森岡 裕策
常務理事	山本 浩
	岩田 史昭

理事	池田 めぐみ	刈谷 好孝	東瀬 義人
	今井 純子	工藤 保子	坂東 美紀
	今浦 千信	國吉 冨美子	松井 守
	上島 しのぶ	髙井 志保	丸山 由美
	鹿島 丈博	髙野 瑞洋	室伏 由佳
	勝田 隆	田畑 綾美	山倉 紀子
	角屋 憲正	霊池 恵量	山下 泰裕

監事	草野 満代
	藤田 裕司
	森井 じゅん

評議員会

理事会

- 日本スポーツ少年団
- 地域スポーツクラブ育成委員会
- 指導者育成委員会
- 女性スポーツ委員会
- 日本スポーツマスターズ委員会
- 国際交流委員会
- 国民スポーツ大会委員会
- スポーツ医・科学委員会
- ブランド戦略委員会
- 栄典・顕彰委員会
- 加盟団体審査委員会
- アンチ・ドーピング委員会
- 倫理・コンプライアンス委員会
- 財務委員会
- 総合企画委員会

事務局

- 地域スポーツ推進部
  - クラブ育成課：スポーツ医・科学の研究・調査・情報提供／アンチ・ドーピング教育・啓発活動ほか
  - 少年団課：少年団育成計画／指導者・リーダーの養成・研修／登録管理／ジュニア・ユーススポーツ活動プログラム／地域スポーツ活動の環境整備・基盤強化／学校運動部活動改革（地域連携）／クラブ登録・認証制度との連携・統合／JAPAN GAMES のプランディングほか
- スポーツ科学研究室：地域スポーツクラブの育成・活動支援／総合型地域スポーツクラブ全国協議会／地域スポーツ活動の環境整備・基盤強化／学校運動部活動改革（地域連携）／登録・認証管理／少年団登録制度との連携・統合ほか
- スポーツ指導者育成部
  - 指導者育成課：公認スポーツ指導者の養成／資格移行・免除措置／受講者管理／加盟団体との連絡調整／公認スポーツ指導者の認定・登録管理／公認スポーツ指導者の活動促進・研修／適応コースの審査・承認／指導者総合保険制度の運営ほか
- スポーツプロモーション部
  - プロモーション課：アジア近隣諸国及び他課に属さない国際交流／国際スポーツ情報の収集・分析・提供／生涯スポーツの推進／日本スポーツマスターズの開催／スポーツ行事の開催協力／女性スポーツの推進／JAPAN GAMES のプランディング／スポーツボランティア活動の推進ほか
- 国スポ推進部
  - 国スポ課：国スポの開催・運営／国スポ推進方策の企画立案／開催地・競技団体との連絡調整／国スポ等における競技者の育成・支援、情報収集／JAPAN GAMES のプランディングほか
- ブランド戦略部
  - 広報情報システム課：広報活動の企画・PR／情報誌の発行／報道機関との連絡調整／個人情報の保護・管理／スポーツ情報システムの企画・実施ほか
  - マーケティング戦略課：マーケティング／ブランディング／キャンペーン事業全般／標章管理／JAPAN GAMES のブランディングに関わる連絡調整／イノベーションの推進ほか
- インテグリティ推進部
  - インテグリティ推進課：コンプライアンス及びインテグリティ／暴力行為等の根絶／暴力行為等相談窓口の運営／暴力行為等に係る情報資料の収集、分析及び提供／加盟団体適合性審査ほか
- 財務部
  - 財務会計課：予算の作成・執行／補助金・寄付金／決算／発注・契約／会有財産保全管理ほか
- 総務部
  - 人事課：職員人事／人事評価／勤怠管理／福利厚生／栄典・顕彰ほか
  - 総務課：定款等諸規程／理事会・評議員会／会館運用管理／役員／ガバナンス／加盟／スポーツ政策に係る連絡調整／中期計画の企画・立案・評価ほか

JSPO所有標章

JSPOは下記の標章を所有しています。一部の標章については、加盟団体および地方公共団体等のスポーツ推進事業の際には無償で、商業利用に際しては、別に定める手続きにより有償でご使用いただけます。いずれも、事前にJSPOへの申請が必要です。ぜひご活用ください!!

当協会ホームページによる標章利用ご案内

日本スポーツ協会マーク

※日本スポーツ協会マークの使用は推奨しておりません

JAPAN GAMESマーク

国民スポーツ大会に関する文字標章

国民スポーツ大会
国スポ
JAPAN GAMES

日本スポーツマスターズマーク

スポーツ少年団マーク

日本スポーツマスターズに関する文字標章

日本スポーツマスターズ
SPORTS MASTERS JAPAN

地域スポーツクラブSCマーク

公認スポーツ指導者マーク

日本スポーツグランプリに関する文字標章

日本スポーツグランプリ

アクティブ チャイルド プログラム(JSPO-ACP)関連マーク

SPORT HAPPINESS FOR WOMENマーク

スポーツと、望む未来へ。
You are the future of sport.

発行日 令和6(2024)年3月31日
発行 公益財団法人日本スポーツ協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
TEL:03-6910-5800

JSPOは、下記の補助・助成団体およびスポーツ・アクティブ・パートナー・プログラムのパートナー各社からの多大なご支援により、スポーツ推進事業を実施しています。

令和5(2023)年度 補助・助成団体等実績

公益財団法人JKA
- 国民体育大会の実施
- 日本スポーツマスターズの実施

日本馬主協会連合会
- 青少年の健全育成
- スポーツ情報システム運営(JSPOホームページ)
- 国民スポーツ大会に対する支援

独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興基金
- スポーツ少年団の全国競技別交流大会(軟式野球/剣道/バレーボール)

独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ
- ジュニアスポーツフォーラム
- 幼児期からのアクティブ チャイルド プログラム普及促進
- ブロック別クラブネットワークアクション2023
- シニア・リーダースクール
- リーダーズアクション2023
- LGBTQ+などの多様な性のあり方に関する啓発の推進
- クラブマネジャー育成
- スポーツ界の暴力・ハラスメント行為等根絶への次の10年に向けた事業
- アスレティックトレーナー(AT)育成
- スタートコーチインストラクター養成
- スポーツ指導者情報誌発行
- スポーツニュース配信
- 総合型地域スポーツクラブ情報提供
- 環境保護の視点からみる持続可能性の推進
- アンチ・ドーピング教育・啓発
- スポーツにおける暴力行為等根絶対応

公益財団法人スポーツ安全協会
- スポーツ少年団ブロック交流大会
- 総合型地域スポーツクラブ連携支援

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団
- 日本スポーツ協会に対する助成
- ブロック別総合体育大会(ブロック国体)に対する助成
- 日本スポーツマスターズ2023(福井)に対する助成
- 「スポーツの日」中央記念行事に対する助成
- 総合型地域スポーツクラブ育成・活動推進に対する助成
- 生涯スポーツ・体力つくり全国会議2024に対する助成
- スポーツ界の暴力・ハラスメント行為等根絶への次の10年に向けた節目事業に対する助成

公益財団法人三菱養和会
- アスレティックトレーナー(AT)養成講習会

一般財団法人上月財団
- 国民体育大会
- 国民スポーツ大会冬季大会

公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団
- スポーツ少年団の全国競技別交流大会(軟式野球/バレーボール)

令和6(2024)年度 スポーツ・アクティブ・パートナー・プログラム協賛

オフィシャルパートナー

asics / 大塚製薬 / ミズノ / 三井住友海上 / LOTTE / セレスポ / ニチバン / 日本文化出版 / 図書印刷 / 時事通信 / THE SUPER SPORTS / 日本郵政

オフィシャルサプライヤー

JAL / キヤノンジャパン / DESCENTE / 日本体育施設 / PR TIMES / MIKASA / 東武トップツアーズ / JTB / 京都電子工業 / Photo Create / 名鉄観光